

1 教科の到達目標（学習のねらい）

- (1) 対象や事象を捉える創造的な視点について理解するとともに、表現方法を創意工夫し創造的に表すことができるようにする。
- (2) 造形的な良さや美しさ、表現の意図と工夫、美術の働きなどについて考え、主題を生み出し豊かに発想し構想を練ったり、美術や美術文化に対する見方や感じ方を深めたりすることができるようにする。
- (3) 美術の創造活動の喜びを味わい美術を愛好する心情を育み、感性を豊かにし、心豊かな生活を創造していく態度を養い、豊かな情操を培う。

2 年間学習計画と題材

学期	題材名・単元名	内容	達成目標（ねらい）
1	<ul style="list-style-type: none"> ・「鉛筆の不思議」 (絵画、その他) ・「印象派の画家」 (鑑賞) ・「本物よりホンモノらしく」(彫刻) 	<ul style="list-style-type: none"> ・鉛筆の使い方の練習。 ・写生。 印象派の画家の作品を鑑賞し作品のよさや作者について学ぶ。 ・デッサン・立体造形の基礎学習。 (粘土の作業、量感・比例の表現) 	<ul style="list-style-type: none"> (知)鉛筆の色々な使い方を理解して、描けるようにする。 (思)形を正確に捉えられるようにする。 (思)モデルの形や色をよく観察、理解して正確に表現する。 (知)構図や色使いなどに作者の意図が隠されていることを知る。 (思)画面に描かれているものを再確認する。 (主)見方や感じ方を広げる活動に取り組もうとしている。 (知)立体造形の基礎を身に付ける。 (思)創造的な構成を工夫し、心豊かに表現する構成を練っている。 (主)創造活動の喜びを味わい、考えたことを基に表現の学習活動に取り組もうとしている。
2	<ul style="list-style-type: none"> ・「ポスタリゼーション」 (デザイン) ・現代アート(鑑賞) 	<ul style="list-style-type: none"> ・色の理解(混色、色の三要素の理解)。 ・現代アートの作品を鑑賞し作品のよさや作者について学ぶ。 	<ul style="list-style-type: none"> (思)色の性質や特徴を理解し、混色して新しい色作りにつなげていく。 (知)着彩の技術の向上を図る。
3	<ul style="list-style-type: none"> ・「文字を美しく描こう」(デザイン) 	<ul style="list-style-type: none"> ・現代アートの作品を鑑賞し作品のよさや作者について学ぶ。 	<ul style="list-style-type: none"> (知)文字の基本的な描き方を理解する。 (思)創意工夫をして文字を表し描く。

3 評価方法

各観点	評価基準	評価方法
知識・技能	<ul style="list-style-type: none"> ・自他の作品に愛着をもち大切にしようとする気持ち。 ・美術、美術史についての知識理解をもとに創作に反映させる力。 ・紙やポスターカラーなどの道具や用具の基本的な扱い方を理解し、正しく使って自分の思い通りの作品に仕上げる力。 	<ul style="list-style-type: none"> ○アイデアスケッチ ○完成作品(制作状況を含む) ○ワークシート、鑑賞プリント ○提出物 ○定期考査
思考・判断・表現	<ul style="list-style-type: none"> ・ものをよく見る力、気付き発見する力。 ・豊かな感情や考え、空想力や想像力を広げイメージする力。 ・新しいもの、斬新なもの、ユニークなものを考え出 	<ul style="list-style-type: none"> ○アイデアスケッチ ○完成作品(中間状況を含む) ○ワークシート

	<p>す力。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・色や形などの性質を理解し、自分の作品に生かし仕上げる力。 ・想像力を働かせ、作品に表わされた作者の心情や意図、そして表現の工夫を感じ取り多様な表現の良さや美しさなどを味わい、鑑賞に親しむ力。 	
主体的に学習に取り組む態度	<ul style="list-style-type: none"> ・より良いものを作り出そうとする態度。 ・課題の理解から完成した作品まで、良い表現のための工夫や方法を導き出そうとする姿勢。 ・立案、計画、実習、検証、反省、全体を通して自ら考え実践しようとする態度。 	<ul style="list-style-type: none"> ○アイデアスケッチ ○完成作品（中間状況を含む） ○ワークシート ○定期考査 ○授業での発表、発言

4 授業の取組についてのアドバイス

(ア) 授業の受け方と心構え

「授業は学びの場」であることを忘れずに、集中して自分の課題、作業に取り組みましょう。また、他の人の集中の妨げにならないように注意しましょう。

(イ) 授業に準備するもの

教科書・資料集・ファイル・筆記用具（美術では鉛筆、消しゴムを必ず用意してください。）以上4点が基本的な持ち物です。その他、課題によって用意するものがありますが、事前に授業で連絡します。限られた時間を大切に使うために、忘れ物のないようにしてください。

(ウ) 宿題について

普段の授業では、基本的に提出を必要とする宿題はありません。（課題に必要な題材を自分で用意する場合があります。）

5 家庭学習の進め方についてのアドバイス

美術の時間は週に1～2時間しかありません。課題に対しての、アイデアや構想は美術の時間だけでは不足しがちです。授業中で考えたことは家庭学習でまとめておき、次の時間で作業にスムーズに入れるようにしておきましょう。普段の生活の中から、課題を常に意識して「おもしろいもの、楽しいもの、きれいなもの」など、参考になりそうなものを記憶に留めておきましょう。できれば、写真に撮っておいたり、スケッチしたりして、自分なりの参考資料を増やしておきましょう。

6 定期考査への取組についてのアドバイス

美術の考査は課題、目的、内容、実習方法などの授業中の確認事項が主になります。

教科書・資料集・プリント・ワークシート・板書などを復習しておきましょう。

7 苦手な人の取組についてのアドバイス

「絵には自信がなくて、美術は苦手。」と思う人がいるかと思いますが、大切なのは「絵が上手」なことではなく「より良くなろうと努力する」ことです。表面上の上手、下手に関係なく、地道な努力を重ねましょう。このことが技術面の向上につながり、内面的にも成長することになります。練習することで上手になり、続けることで上達します。あきらめることなく粘り強く頑張りましょう。